



平成20年9月27日（土）、神奈川県横浜市南区で『第3回 レインボーフェスタ☆みなみ』が開催され、日本治療的乗馬協会の実践活動の一環として、滝坂代表と深野理事が2頭のポニーとともに参加しました。この催しは中村地区センター、障害者地域活動ホーム「どんとこいみなみ」、横浜市立中村小学校、横浜市立中村特別支援学校などこの地区の施設が共同開催する大きな行事です。

NPOの参加は、馬インフルエンザ流行で参加を見送った昨年を除き、一昨年に続いて2回目です。（社）東京乗馬倶楽部より派遣されたポニー2頭を用いて、特別支援学校の肢体不自由などの大変重度な障害がある子ども達10名、そして一般の子どもたち約100名が秋晴れの中での乗馬を楽しみました。

会場内では複数の催しや出店等が行なわれ、大変にぎやかな雰囲気となったため、ポニーが落ち着かない場面も一時見られましたが、スタッフの適切な馴致と滝坂代表による子どもたちへの丁寧なサポートにより無事に進行し、終了の際には翌年度の参加を早くも依頼される活動となりました。



ポニーとのふれあいを楽しむ子供たち



引き馬乗馬の開始を待つ列

会員募集のお知らせ

NPO法人日本治療的乗馬協会では会員を募集しております。会員になりますと定期的に発行されますニューズレターをお届けし、治療的乗馬の最新情

報をお伝えします。また、研究集会や今後協会として企画を予定しています勉強会などに会員料金で参加することができます。入会を希望される方は、NPO日本治療的乗馬協会事務局 03-3813-3819までお問い合わせください。

日本治療的乗馬協会 ニューズレター 第3号

編集・発行 特定非営利活動法人 日本治療的乗馬協会

発行日 2008(平成20)年11月8日

事務局 東京都文京区白山1-20-4 ハウス白山ビル

電話: 03(3813)3819

E-mail: office@jtranet.jp

ホームページ <http://jtranet.jp/>

編集後記

「治療的乗馬」研究集会2008の開催に合わせニューズレター第3号を発行することができました。原稿の締め切りまでに時間がすくないにも関わらず、原稿を執筆していただきました方に深く感謝いたします。第3号では、日本乗馬療法協会(NRT)やレモンクラブからの活動報告と、日本治療的乗馬協会が行っている活動報告を掲載することができました。研究集会に参加していただける方の層の広がりからさらには皆様のお役に立てるようなニューズレターとなるべく編集担当として努めてまいります。(川嶋)



カール・クルーヴァー博士からのメッセージ

本研究集会開催の契機となった2005年<セミナー「治療的乗馬」理論と実際>の講師、元国際障害者乗馬連盟会長のカール・クルーヴァー博士(Prof.Dr.med. Carl Kluewer)から研究集会2008とご参加の皆様に対し、以下のようなメッセージが届きました。博士は本日11月8日、87歳の誕生日を迎えられましたが現在も臨床活動に従事され、週に2~3日は早朝に愛馬とともに外乗を楽しまれています。そして、日本における本領域の発展を心から願っておられます。

トピックス

動作法について	2
活動報告	3
レモンクラブ	3
活動報告	3
日本乗馬療法協会(NRT)	3
JTRA活動報告	4

Refrath, 7.11.2008

Message for the meeting and the participants!

Since November 2006 I know your enthusiasm and the engagement for Therapeutic Riding on the reliable scientific basis and with elaborated save techniques.

The Committee and the National Organisation with its officials realized a really convincing development. I admire and congratulate the progress.

Certainly "The Center for Equine Facillitated Therapy" at the University of Tokyo approves the official and public acceptance.

I send my best wishes and greetings for the organisers and members of the "3. National Meeting of Therapeutic Riding."

May you all find joy and good steps into the future,

yours

Carl Kluewer

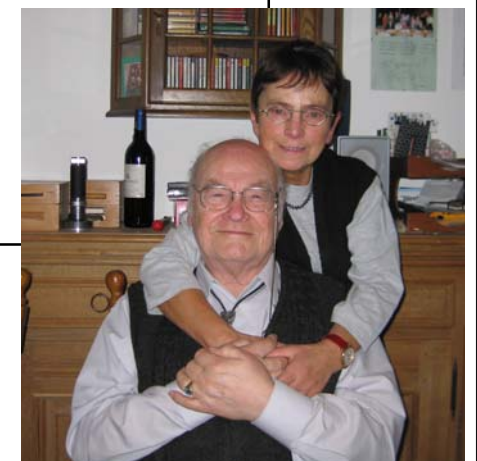
Prof. Dr. med. Carl Klüwer

Past President of

"The Federation Riding for the Disabled International"

カール・クルーヴァー博士からのメッセージ (上)

カール・クルーヴァー博士とご夫人 (右)



今回の研究集会の記念講演は2講演とも動作法に関わる内容となっております。記念講演の内容をより深く皆様に理解していただくために、動作法の基本的な内容について簡単にまとめました。今回の記念講演そして治療的乗馬の世界の理解にお役立てください。

動作法について

1960年代後半、脳性麻痺患者の身体の動きにおける不自由が、催眠状態では覚醒時とは異なっていることが確認された。成瀬悟策、大野清志らはこの事実に着目し、脳性麻痺による身体運動上の不自由を「誤学習」と捉え、意識的な再学習を行うことによって不自由を改善することができる考えた。この考えに基づき、脳性麻痺による肢体不自由児・者の身体運動上の不自由の改善をねらいとして開発されたのが<動作訓練>である。

彼らは、人間の身体の動きは目的達成を目指して行われる意図的かつ主体的なもので「意図—努力—身体運動」というしくみを持つとし、この全体を<動作>と呼んだ。実際のセッションでは、トレーナーから行われる関節可動域へのはたらきかけを受け、本人が恒常化している筋緊張(「慢性緊張」)に気づいて主体的にリラクゼーションを行い、さらに適切な動作を再学習していく。そしてここで取り扱われる課題は「動作課題」と呼ばれている。

<動作訓練>は、従来医療に大きく依存する状況にあった肢体不自由児教育において「養護・訓練」領域における心理・教育的な指導法として受け入れられ、全国的に広まることとなった。

1970年代に入り、動作訓練の技法は脳性麻痺による肢体不自由をもつ人びとばかりでなく様々な障害をもつ人びとに対して試みられるようになる。特に、自閉症と言われる子どもたちに対する「腕上げ」を動作課題としたセッションが対人関係や多動傾向に改善をもたらすという今野義孝らの事例報告は、以降ダウン症、知的障害、不登校、また統合失調症などの精神疾患そして高齢者など様々な人びとに対する身体を通じての心理的アプローチとして展開し、動作訓練が<動作法>と呼ばれるようになる一つの契機となった。

この経過の中で成瀬は、セッション場面におけるトレーナーとトレーニーの関係に着目し、[自己・自体—他者・他体]という構成概念を立ててセッション中に起こる両者の心理的な事態および身体と自己意識との関係について説明を試みている。

動作法は実践の局面を重視して技法の開発や理論形成を行うことを通じ、人間の心身のとらえ方に豊かな知見をもたらしてきた。これらの内容は心理・教育の領域にとどまらず、より広範に身体論や自己認識の問題に対し、多くの示唆を含んでいる。今後、内容のより多角的な検討と理論の構築とが期待される。

(滝坂信一)

～「障害福祉の基礎用語」, 財団法人日本知的障害者福祉協会, 2004～から

レモンクラブ

レモンクラブでは障がいのある子どもたちが馬に乗り遊びを通して教育・療育的活動をしています。その基本は「子どもが楽しく感じる活動」で子どもたちの笑顔が絶えません。

馬に乗ると子どもが集中し周囲の人たちに注目することを利用して、子どもの発達に応じた活動計画を立てます。「活動計画」と称しても実際は遊びの工夫です。例えばこだわりのある子どもの場合、枝に掛けられるように工夫した小さなおもちゃとそれを掬い上げる手鉤を準備します。おもちゃの掬いあげは細かくて根気のいる遊びですが、馬に跨った子どもは汗まみれながら熱中し楽しめます。そこへ「赤色のついたおもちゃを3つ」と条件をつけます。子どもはおもちゃについて「赤色」を探すことで様々な「赤色」のあることを自ら納得し、少しずつこだわりが解消してゆきます。しかし、計画は子どもの反応に応じてすぐに変更されます。「赤色」と指定されることに抵抗を感じた気配を察知すると、6面を色分けしたサイコロを使って子どもに色を決めてもらいます。そのような変更が即座に可能となるのは、子どもに関わる全員が「子どもの発達過程を把握し今は何が重要であるかを十分理解している」と「ほんの小さな変化も見逃さない目を持っている」ことです。親兄弟、ボランティア全員が馬場に入り自由に遊びに参加するので乗り手との一体感はおのずと高まります。さらに、活動前後には

子どもについて全員で意見交換をします。どの子について意見を求められるか決められていませんのでどの子についても観察し意見を整理しておく必要があります。このような活動を積み重ねることで、子どもたちは仲間意識を高め、さまざまな活動に挑戦して大きく成長・発達しています。



代表：慶野宏臣

所在地：愛知県犬山市高洞（犬山城から南へ数km）
馬と人：木曾馬2頭と1頭のハフリンガーそして障害のある子ども43人のクラブです。

連絡：sp8h-kin@asahi-net.or.jpへメールもしくは0572-27-9036へFax. してください。

日本乗馬療法協会(NRT)

NRT(日本乗馬療法協会)は、1992年馬懇(懇談会)として故長谷川泰造弁護士(NRT初代会長)・社会福祉法人コロニー雲仙田島良昭理事長・財団法人ハーモニセンター大野重男理事長・当時厚生省職員であった浅野史郎(元宮城県知事)等々が立ち上げ、1995年にNRT(日本乗馬療法協会)として正式に発足いたしました。

初代会長長谷川泰造氏のどんな重度の障害児者も忘れら



れることがない様に、乗馬療法の名称を使用するという遺志を守って、普及・啓発活動を行ってきました。

独自の研修会としては過去3回ドイツより乗馬療法のインストラクターを招へいたり、勉強会も月1回以上開催してきました。

馬と人、人と人との橋渡しとして、北は北海道から南は九州までの移動乗馬教室を続けてまいりました。現在も(財)ハーモニセンターの応援を受けながら、移動乗馬教室を続けております。その中の1つである社団法人芝法人会主催の乗馬会は、8年間続けているおり、第1回目の参加者が43名であったのですが、今では300名以上の参加者がおります。

東京タワーのふもとの芝公園をはじめ御田小学校を中心とし、地域の方々・PTA・消防署・警察・日本Gボール(バランスボール)協会等々沢山の方々の協力を得て、馬を中心にして心をつなぐ楽しい乗馬会になっています。そして今でも芝公園に常設の施設を作る事を夢見ている地元の皆様とともに活動を続けております。

また、一昨年4月7日2代目会長である浜島恒夫氏が47歳の若さで逝去いたしました。本当に波乱万丈ですが、皆様の温かいご支援のもと、NRTは自馬も持たず・場所も持たずですが、主催されている方々やボランティアの熱意に支えられ、人と馬が繰り広げる未来の希望へと夢を膨らましております。